

BizBrowser Mobile for Windows

Ver.4.5.2

1. Biz/Browser Mobile for Windowsについて

このアプリケーションはBiz/Browser Mobileと同等の実行環境をWindows上で再現し、さらにBiz/Designerとの連携によりデバッグ環境を提供するものです。

Biz/Designerのオプション、「Biz/Browserのパス」へこのexeを指定することによりWindows上でBiz/Browser Mobileの開発、およびデバッグ、テストを行うことができます。

PC版Biz/Browserと同様に、ブレークポイントの設定、ステップ実行、変数の参照、イベントトラッキング、プロファイリングなどの機能が使用できます。

2. 動作環境

OS

Windows2000、Windows XP(32bit)、Windows Vista(32bit)、Windows 7、Windows 8、Windows 10
各OSともInternet Explorer5.5(SP2)以上がインストールされていること
ExternalObject利用時には、.NET Framework 2.0以上がインストールされていること

3. 実行ライセンスに関して

ハンディターミナル向けBiz/Browser Mobileと同様にサーバアクセスライセンスをインポートすることができます。

またPC向けBiz/Browserと同様にライセンス登録済みのBiz/Designerが存在する場合、デバッグ用フルアクセスライセンスが付加されます。

4. モバイル端末版との差異

a. メニュー

メニューに「端末」という項目が追加されています。このメニューより様々な端末のエミュレートを行うことが出来ます。

縦横切替

縦横切替機能を持つ端末をエミュレートします。トグル動作で画面サイズを切り替えます

互換モード

後述

プロファイル一覧

デフォルトとしてGeneric WindowsMobileおよびGeneric WindowsCE、またそれぞれのワイド画面版の計4種のプロファイルがプリセットされています。

プロファイルの追加方法に関しては後述します。

b. フォントによる差異

ハンディターミナルで使用されるフォントとWindowsで使用されるフォントに差異があるため文字の表示幅がWindows上と実端末で一致しません。

デザイン、レイアウトはこの差異に注意する必要があります。

c. ShowMenuメソッドの動作

ShowMenuメソッドの動作がハンディターミナル向けBiz/Browser Mobileと異なります。

メニューバーは非表示になりません。その代わりにプロファイルに従いメニューバーやタスクバーの高さの分画面の縦方向の幅が大きくなり論理的に端末の画面サイズをエミュレートします。

d. タップ&ホールド

タップ&ホールド操作は実装されていません。右クリックによって直接RClickedイベントを発生することで代用してください。

e. バージョンエミュレーション

[端末]メニューの互換モードで旧バージョンを選択することによりエミュレーションモードになります。実装オブジェクト、プロパティなどほぼ旧バージョンと同様の動作をエミュレートします。
V2/V3エミュレーションモードでは、フォルダやUserAgentもV2/V3を摸しますがレジストリへの状態の記憶のみV4モードと共通になります。

f. ExternalObjectと.NET Framework

Biz/Browser Mobile for Windowsでも端末版と同様にExternalObject経由の.NETオブジェクト呼び出しに対応しています。
ただし、呼び出し対象は.NET Compact Frameworkではなく、PC版の.NET Frameworkになりますのでアセンブリ、実装クラスや動作に差異がある場合があります。

g. 複数同時起動と/forceオプション

端末版では複数同時起動は抑止されていますが、Biz/Browser Mobile for Windowsではデバッグ用途に使用するという前提のため複数同時起動が可能になっています。
そのため端末版で有効な/forceコマンドラインオプションは無効になります。

5. 端末プロファイルの追加

settings.v4(エミュレーションモードによりv2またはv3)¥profileフォルダにXMLファイルを追加することにより端末プロファイルを追加することが可能です。

XMLファイルは一般的なテキストエディタで作成できますが、Biz/Designer Mobileを使用するとGUIで作成することが可能です。

XMLサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<profile xmlns="http://www.axissoft.co.jp/biz/mobile/profile/1.0/" version="1.0.2.0">
  <name>OpenStream Mobile Emulator</name>
  <os type="WindowsMobile" version="5.0" />
  <verticalsize width="236" height="296" />
  <horizontalsize width="290" height="194" />
  <commandbar height="26" />
  <direction initial="vertical" changeable="true" />
  <showmenu mode="15" />
  <font standard="MS P ゴシック" fixed="MS ゴシック" />
</profile>
```

タグ名	属性	説明
<profile>		固定値
	version	端末プロファイルのバージョン
<name>		任意のプロファイル名、この名称がメニューに表示されます
<os>	type	"WindowsMobile"または"WindowsCE"
	version	"4.2","5.0"・・・
<verticalsize>		縦方向の画面サイズ (Formの最大値)
<horizontalsize>		横方向の画面サイズ (縦横切替サポート時)
<commandbar>	height	WindowsCE: コマンドバーの高さ WindowMobile: タスクバー、およびコマンドバーの高さ
		画面切替設定
<direction>	initial	vertical=初期縦画面、horizontal=初期横画面
	changeable	true、false縦横切替機能の有無
	mode	初期時のShowMenu関数実行値
		FontFaceプロパティで使用されるフォントを指定
	standard	FontFace=\$STD時のフォント名
	fixed	FontFace=\$FIXED時のフォント名

バージョンエミュレーションと端末プロファイルのバージョン

V3.1.0にてShowMenuの動作が変更されたため、対応した端末プロファイルのバージョンも"1.0.1.0"に変更されました。
互換性維持のため従来のバージョン1.0.0.0のプロファイルも使用できますが、以下のルールで値が変換されます。

プロファイル"1.0.0.0"	ShowMenuの値は+12(root.SIPBar+root.TaskBar)されます。
	WindowsMobileではCommandBarの値は無視され固定値26と見なされます
プロファイル"1.0.1.0"	WindowsMobileでCommandBarの値が有効になります

6. 制限事項

Windows Vista以降での利用について

以下の機能について、Windows Vista以降のOSで他のWindowsと挙動が異なる、あるいは正常動作しない事が確認されています。これらの機能についてはWindows Vistaではご利用になれない、または正常に動作しませんのでご注意ください。

(1) フォントの差異について

Windows Vistaより前のバージョンと、フォントの表示結果が異なる場合があります。

詳細は「JIS X 0213:2004 対応と新日本語フォント「メイリオ」について」を参照ください。

URLは以下です。

http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/default.mspx

(2) キーボードフォーカスについて

まれに画面上からキーボードフォーカスが失われることがあります。マウスのクリックによりフォーカスを再設定することで復帰します。

(3) キーボードフォーカスを示す破線の表示について

ダイアログやメッセージボックスを表示させた際に キーボードフォーカスを示す破線が表示されない場合があります。

これは破線が表示されていないという表示上の問題で、キーボードフォーカス自体はオブジェクトにあたっています。

これはWindowsの設定による現象です。

[コントロール パネル]→[コンピューターの簡単操作]→[コンピューターの簡単操作センター]

→[キーボードを使いやすくします]

→[ショートカットキーを使いやすくします]

「ショートカットキーとアクセスキーにした線を表示します」へチェックが

されていない場合、フォーカスを示す点線の枠が表示されない場合があります。

(※デフォルトはチェックなし)

Windows XPでのご利用について

(1) 「ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する」をオフでご利用ください

画面の効果より、「ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する」のチェックをオフにした状態でご利用ください。オンの状態の場合、次の障害が確認されています。

・ウィンドウをドラッグ操作した際に、そのウィンドウの下に重なったウィンドウの一部の領域が正常に更新されず、白い線のような跡が残る場合がある。

(2) その他ご注意

次のような障害が確認されていますが、マイクロソフトが提供する修正パッチにより解決する場合があります。

・IME入力中にF5キーで文字コードを入力する際、入力途中の未変換の文字が消えることがある。また、カーソルが表示されなくなることがある。

この問題はマイクロソフト社より 「『該当するコードが存在しない文字コードを入力する』という操作が本来のOSの動作からすると、想定外の動作であるため、想定外の動作に関しては、動作保証・対処について提示することが出来ない。」との回答を提示されています。

Windows 8以降でのご利用について

(1) 「アプリ ウィンドウごとに異なる入力方式を設定する」をオンでご利用ください

Windows 8以降のOS上ではIMEModeプロパティで指定した入力モードが無視されてしまう場合があります。これはWindows 8以降では従来とは異なり全アプリのウィンドウで共通の入力方式を使用することが標準となったためです。

これはWindowsの設定による現象です。

[コントロールパネル]→[時計、言語、及び地域]カテゴリの[入力方法の変更]→[詳細設定]を開き、

[アプリ ウィンドウごとに異なる入力方式を設定する]と[使用可能な場合にデスクトップ言語バーを使用する]をオンにすることでWindows 7以前と同様の動作になります。

(2) フォント・文字間隔の差異について

OS間のフォント・文字間隔の違いによりテキストの表示位置、改行位置に差異が発生する場合があります。

(3) 「テキストやその他の項目の大きさの変更」を「小-100%」でご利用ください

高精細ディスプレイを搭載したマシン上でWindows 8環境の場合、「テキストやその他の項目の大きさの変更」の設定が「小-100%」以外に設定されていることがあります。

この場合、以下のような現象が確認されております。

- ・ Biz/Browserから表示するダイアログ上で、メッセージが入りきらず、途中で切れてしまう場合がある
- ・ Biz/Browserから表示するダイアログ上で、画像が拡大されず、レイアウトが崩れてしまう場合がある

これはWindowsの設定による現象です。

[コントロールパネル]→[デスクトップのカスタマイズ]を開き、[ディスプレイ]カテゴリの[テキストやその他の項目の大きさの変更]を「小-100%」にすることで回避できます。